インタビュアー：じゃあ、お願いします。

トヤ：はい。

インタビュアー：じゃあ、まず自己紹介として名前と出身地、入社して何年目か、趣味とかあれば。

トヤ：バンダリチヅル(0:00:17)です。名古屋出身で、エテルノに入って今 17 年目になります。

インタビュアー：長いことありがとうございます。じゃあ、早速聞いていきますけど、エテルノで働く前について聞かせてください。どこで働いていましたか？

トヤ：一番初めは別の美容室で働いていて、その後辞めて結婚式場の衣装のほうにいました。

インタビュアー：それは衣装とかそういうのがしたくて？

トヤ：まだそのときは衣装に興味があるとかはなかったですけど、でも美容から離れることはしたくなくって、なので結婚式場の衣装をやってみたいって言うとあれですけど、美容室ではない美容に携わりたかった。

インタビュアー：美容師が嫌になったとかそういうこと？

トヤ：カットがちょっと怖い時期があった。

インタビュアー：なるほど。カットが怖いっていうのは何か理由があったんですか？

トヤ：結構ヘアスタイルってカットが決め手になると思うので、それを自分が責任持ってできるのか。かっこいいスタイルとかかわいいスタイルとか、そういうスタイルがちゃんと作れるのかっていうのが不安で怖い時期がありました。

インタビュアー：なるほど。で、ブライダルのほうにちょっと興味を持ったってことですね。

トヤ：はい。

インタビュアー：分かりました。ちなみにブライダルはどのくらい働いてたんですか？

トヤ：ブライダルは 1 年も働いてないと思います。10 カ月とかそのぐらい。

インタビュアー：逆に 10 カ月でどうして退職することになったんですか？

トヤ：やっぱり美容師やりたいと思ったからです。

インタビュアー：なるほどね、分かる。ちなみに他に抱えてた問題とかなかったですか？例えば人間関係だとか時間的だとか将来性とか経済的とか。

トヤ：そんなに不安はないけども、でも時間に縛られるというか、営業してその後練習で夜遅くなるっていうのは分かってたので、でも一生できる仕事だと思ったので、そこは乗り越えようと思って不安は大丈夫でした。

インタビュアー：そこはやっぱ覚悟ができたみたいなことですかね。

トヤ：はい。

インタビュアー：なるほど。ちなみにそのときとかは、何かやりたい夢や仕事で達成したい目標とかってありましたか？

トヤ：そのときはまだ明確にはなかったと思うんですけど、結局、髪の毛いじったりするのが自分は好きだなと思ったので、早くお客さんをつけてかっこいいスタイルとかをたくさん作れたらいいなと思いました。

インタビュアー：なるほど。じゃあ、今できてますね。

トヤ：ありがとうございます。

インタビュアー：じゃあ、次の質問いきます。美容業界で働こうと思ったきっかけみたいなのって何かあるんですか？

トヤ：やっぱかっこいいなっていうのがありました。

インタビュアー：カットしている人が、美容師がみたいな。

トヤ：美容師がキラキラしてる。

インタビュアー：じゃあ、働く前の美容業界のイメージみたいなのもキラキラっていうイメージだけでした？いいと悪いって何かなかったですか？

トヤ：悪いって印象はまずなかったですね。あんまりまだちゃんと分かってなかったのかもしれない、詳しくは。

インタビュアー：なるほど。ちなみにキラキラしてるっていうイメージを抱くきっかけって何だったか覚えてる？

トヤ：難しいな。1回美容師を離れてみて、自分は違うなと思って、ブライダルっていうか美容師じゃないことをやって、なんかちょっと違うな、やっぱり大変な思いしてでも美容師やりたいと思って、そうなったときに雑誌見るなり、テレビはあれかもしれないんですけど、やっぱりそういう美容師に目がいくというか、かっこいいスタイルとかファッション的なものを見て、おしゃれの最先端じゃないけど、それを作ってる人たちってきっとキラキラしてるんだろうなって多分印象だったんだと思います。美術とかも嫌いではないので、そういうデザイン性みたいなものが自分はちょっと好きかなと思いました。

インタビュアー：なるほどね。じゃあ、そういうのをやってる美容師がキラキラして見えたってことですね。分かりました。実際、そういうふうに今なってると思うんですけど、トヤさんは。どうですか？キラキラしてるイメージは今は。

トヤ：毎日楽しいのでしてると思います。

インタビュアー：マジすか、良かったっす。ここで動画止めたいっす。じゃあ、次いきます。エテルノに応募したきっかけについて、数ある美容室の中で何でエテルノに応募したのか。

トヤ：まず、あんまり人が多いっていうのが自分は得意じゃないので、ちっちゃいサロンかつお店の雰囲気とかも温かみがある感じでいいかなと思いました。

インタビュアー：なるほど。例えばホームページを見てとかそういうこと？実際見てとか？

トヤ：ホットペッパーだったので、私は雑誌のほうの。その写真を見ていいなと思いました。

インタビュアー：なるほど、ありがとうございます。入社前にうちの店エテルノに対して何

かイメージしたこととかありますか？いいと思ってたとか、ちょっとどうかなとか。

トヤ：私は特になかったです。

インタビュアー：最初言ってた温かい感じがするかなぐらいの、その雰囲気が。

トヤ：そうですね。1回辞めて途中から入るっていう感じなので、なんかあんまりたくさんいると自分の今までやってきた技術、カット以外のことに自信が持てないって言ったらあれですけど、それが不安なのもあったので、そのへんをカバーしてくれそうな感じも話聞いたりとかして思ったのもあります。

インタビュアー：ちなみにそのときに他社とか比較した会社とかってありました？

トヤ：ないです。

インタビュアー：ほんとですか、1本釣りですか。あざっす。ちなみにうちを選ぶときに誰かに相談とかってしました？

トヤ：結婚式場で働いてたときの一緒に働いてた子に相談はしたと思います。

インタビュアー：ちなみにどんな相談をしたんですか？

トヤ：おうちから近いっていうのもあって、そのときはスタッフの写真とかも載ってたりしたので、どうかな？みたいなのを相談したと思います。

インタビュアー：そのときのスタッフの写真とか見てどうでした？

トヤ：でも、若い感じだったので。

インタビュアー：当時は。

トヤ：前の店が結構年配が来るお客さんとか、ちょっと年配の人しか働いてなかった感じなので。

インタビュアー：一緒に働いてた人が。

トヤ：そうです。

インタビュアー：なるほど、ありがとうございます。ここにしようと思った決め手っていうのも何かあったんですかね？エテルノにしようと思ったきっかけ。

トヤ：他のところを見てないので。

インタビュアー：単純にそういうことですね。

トヤ：はい。

インタビュアー：じゃあ、エテルノの面接のこととかって覚えてますか？

トヤ：うっすら。17 年前なんでうっすらです。

インタビュアー：なんとなく、どうでした？面接の感じ。

トヤ：普通は 1 対 1 で割りとすることが多いと思うんで、個人的なイメージですけど。そのときはまだスタッフがエテルノは 3 人でそのうち 2 人しか夜はいなかったんで、2 対 1 だったんですけど、それでも緊張したというか、怖いじゃないけどそういう感じはありました。

インタビュアー：実際怖いことを言われたとかそういうことは。

トヤ：それはないです。

インタビュアー：良かったです。

トヤ：それはないんですけど、2 対 1 の感じが。

インタビュアー：ちょっと怖かったかなと。失礼しました。

トヤ：いえ。

インタビュアー：じゃあ、入社後の変化についてですね、入社してからどのくらいで仕事に慣れましたか？

トヤ：半年ぐらいはかかってると思います。

インタビュアー：それは働き方みたいなところですかね？人との関わりみたいな。

トヤ：人との関わりもあるし、仕事の流れ。どういったらスムーズにいくとか、そういう感じです。

インタビュアー：じゃあ、苦労したこととかってあった？

トヤ：私が入る前はスタッフ３人いて、多分もう関係性ができてたので、そこに入っていく感じとかが難しいじゃないけど、得意なほうではないので、そういうのが。あんまり先輩後輩みたいな付き合いもあんまりしてきてないから、先輩に対してとか上の人に対しての接し方が自信がなかったです。それが苦労したというか、それはありますね。

インタビュアー：実際に働いてみてどうですか？イメージと異なることとか何かありましたか？

トヤ：いろいろ注意されることは結構あったと思うんですけど、それも嫌な感じで言われるんじゃなくて、ちゃんと意味があって言われたりとかすること、自分に対して責任感を持たせるような感じだったので、そのへんがイメージとしては良かったというか。

インタビュアー：いい意味で良かったってことですか？

トヤ：はい。

インタビュアー：それは良かったです。抱えてた問題や不安とかっていうのは、さっき技術的なこととかも言ってたけど、そういう不安は解消できましたか？

トヤ：すぐではないかもしれないけども、できたと思います。

インタビュアー：良かったです。技術なんでね、時間は多少かかったかもしれないですね。じゃあ、プライベートとかに何か変化とかってありましたか？うちで働いていて。

トヤ：旅行とか、海外とかそういうのに興味が持てるようになりました。

インタビュアー：何でなんだろうね？

トヤ：スタッフの影響もあると思うし、個人的には。スタッフが行ってて自分も行ってみたいっていうのが一番のきっかけだったかもしれないですね。

インタビュアー：良かったです。入社して一番うれしかったこととかは何かありますか？

トヤ：ヘアスタイルを作ってお客さんに喜んでもらえることが一番うれしいです。

インタビュアー：良かったです。そうよね、ほんとそれよね。じゃあ、もしエテルノに入社していなかったとしたら今どうなってたでしょう？

トヤ：美容師をしてなかったかもしれないです。

インタビュアー：それは逆に何で？

トヤ：こんな温かいふうにいろいろ教えてくれないと思うんで。イメージです。

インタビュアー：そうだよね、実際。イメージでしかしゃべれないもんね。じゃあ、どこで就職しようか迷ってる人にエテルノを勧めるとしたらどのように勧めますか？

トヤ：自分のなりたい美容師像があるのであれば、それをしっかり応援してくれるみんながいるので、そしてプライベートも充実できるというか。仕事もプライベートも両方充実できるよって勧めたい。

インタビュアー：逆に向かない人ってどんな人ですか？エテルノに。

トヤ：漠然としてる人。

インタビュアー：漠然というと。

トヤ：ほんとにすごい人を喜ばせたいとかきれいにしてあげたいとか強い気持ち。もっと上を目指したいとか、そういう人ならいいですけど、なんとなくやってるような人は自分たちと目指してるものが違うのかなって思ってしまうので、向かないかなと思います。

インタビュアー：目の前のことに一生懸命なれないってことかな、やっぱり。じゃあ、次です。エテルノのノルマとかってありますか？売り上げのノルマとかそういったことってあ

りますか？

トヤ：ノルマはないと思います。

インタビュアー：良かったです。例えば、売り上げに対するプレッシャーをかけられるとか。

トヤ：それはないですね。

インタビュアー：現状得られてる自分の給料に対しての不満とか満足感とかってのはどうですか？

トヤ：そんなにないと思います。

インタビュアー：正直に言ってください、あるんだったら。

トヤ：いや、ないです。

インタビュアー：休みについてですね。結構うちの店は美容室としてはお休みっていうのは。

トヤ：あるほうだと思います。

インタビュアー：あるほうだと思ってますか。

トヤ：はい。

インタビュアー：取れるほうかなって感じですかね。具体的にこんな休み取ったよとかってありますか？何連休したとか。

トヤ：連休って言ったらいいか分かんないですけど、自分の場合は 1 カ月お休みをいただいて、オーストラリアに留学させてもらったので、自分の中ではすごい貴重な体験ができたお休みになりました。

インタビュアー：普通のサロンだったらできる？

トヤ：できないと思います、多分。

インタビュアー：なるほど、分かりました。じゃあ、社風とかについてですね。スタッフの仲は良いですか？

トヤ：普通ぐらいだと思います。

インタビュアー：いじめがあるとかそういうふうでは。

トヤ：ないと思います。

インタビュアー：上司とかの関係とかはどうですか？

トヤ：そんな上司上司してない感じなので。大丈夫かなと思います。

インタビュアー：社員を大切にしてくれてるなって感じることとかってあります？

トヤ：感じます。

インタビュアー：スタッフ同士がけんかをしたのを見たこととかってありますか？

トヤ：ないです。

インタビュアー：じゃあ、今度勉強会についてですね。勉強会とかって何個かいろいろ受けたりしてると思うんですけど、どんな印象がありますかね？

トヤ：新しい技術が間近で見られたりとか、そのときのはやりではないですけど、そういうスタイルとか作り方見てると面白いなって思います。

インタビュアー：そういう勉強会とかはやっぱり定期的に見直すべき、やってくものですかね？

トヤ：そうですね。

インタビュアー：分かりました。最後求職者に向けて何か一言とかありますか？

トヤ：まずはやっぱり自分がどういう美容師になりたいかっていうのを明確までじゃないけども、ちゃんと理想とするものを持ったほうがいいかなと思うし、それをバックアッして

くれるサロンを見つけてもらえるといいかなと思います。

インタビュアー：ありがとうございます。